

債務超過Ⅱ

制度会計(税務会計)では、債務超過を“純資産の金額がマイナスの場合”としています。しかし「資金会計理論」では、債務超過について次のように定義しており、制度会計とは大きく異なります。

$$\text{借入金} + \text{社債} + \text{設備未払金} + \text{設備手形(その他これと同等の勘定科目)} - \text{現金預金} = \text{資金債務超過額}$$

資金債務超過額のマイナスが每期少なくなった後、プラスに転じ、その金額が多くなっていけば会社の財務内容が良い方向に向かっています。逆にマイナスが每期多くなっていれば会社の財務内容は悪い方向に向かっています。実にシンプルで解かりやすい財務の見方です。

財政内容の良し悪しは資金繰りで判断するもので、売上高・利益の金額、従業員の数等とは関係ありません。増収増益だから財務内容が良いとも限らないのです。

資金会計理論の財務分析は、各資金のプラスマイナスを良し悪しで判断するのではなく、なぜこうなったかを分析するもので、難しい経営分析の手法は使いません。

試算表の中にある資金別貸借対照表グラフと、ニュー資金別貸借対照表グラフの線がすべてプラスの欄にある会社は、資金会計理論においては優良企業です。毎月このグラフの線だけでも注意して見ておかれるといいでしょう。

スムーズな資金繰りをするために、『財務目標』を考えてみましょう。

- ① 借入金を減らすべきか、減らしたいのか。
- ② 手持ちの資金を増やすべきか、増やしたいのか。
- ③ 未来資金を増やすべきか、増やしたいのか。

以上の視点から、自社の資金別貸借対照表を検討されては、いかがでしょうか。

「資金会計理論」を用いれば、資金繰りが楽な財政状態を目指すことができます。